

デジタル化 機械化の その先にあるもの

株式会社 **セイトウ社**

株式会社セイトウ社

代表取締役 / 西牧 潤

所在地 / 宮城県仙台市若林区鶴代町5-66

T E L / 022-783-4411



実験を重ねてたどり着いた適正な糊の量で指示を出す



薄い冊子から厚いものまで
この厚さでもページ抜けが起らない



今回導入した設備。他の製本会社でも持っているところは少なく、普通の糊とPUR糊を併用できるので幅広い製本に対応できる

職人の感覚を数値化し 安定したものづくり

昭和21年の創業当時、市役所や県庁のある二日町や国分町界隈には印刷屋が集まっていた。当社も官公庁の仕事を請け負い、報告書などのモノクロ印刷を得意としていたが、時代の推移とともにカラー印刷を導入。平成25年度補正のものづくり補助金では、「濃度計の自動制御によるカラーマネジメントの確立」に取り組んだ。カラーの色味の調整は職人技の世界。機械の調整やインクの量の微調整は感覚的なもので、一人前になるのに約3年かかる。それがデジタル化されたことで品質管理も向上し、オペレーターも営業もより自信を持って仕事に取り組めるようになった。

自走式分光濃度計の活用による カラーコントロールの実施

色味の調整はオペレーターの主観頼りのため、多くの時間と大量の試し刷りが必要になる。スペクトロドライブ(自走式分光濃度計)を導入したことで、コスト削減さらに生産効率の大幅なアップにも繋がった。



カラーの色味を画面上の数字で管理する

さらに平成27年度補正のものづくり補助金では、PUR糊を使って製本する機械を導入した。無線綴じ製本に使われるPUR糊は、一度固まるとどんな高温になっても溶けない特殊な糊だ。夏場に高温になる車内に本を放置しても溶けることがない。テキストなどの冊子は、使っているうちにページが抜けたというクレームが起ることがちだが、このPUR糊による製本ならページ抜けを防ぐことができる。導入後に、理想的に本が開く角度と



色のバランスをデジタル表示で管理・調整

糊の量の実験を重ね、最適な状態にたどり着いた。

品質向上が 社員の意識改革へ

「色の補正もそうですが職人の勘だけではなく、機械を導入し、数値化することで品質が良くなり、社員の意識も変わりました。お客様からの信頼も間違いなく上がったと思います」と西牧社長は語る。これまで外注していた製本の内製化により納期コントロールが可能なたため、急ぎの仕事も請け負うことができるようになった。機械化を進め、新技術を取り入れ、今後は新商品の開発も視野に入れ取り組んでいきたいと考えている。

また、印刷業はどの会社とも付き合える業種だからこそ、攻めの姿勢でものづくりができる会社を目指す企業として奮闘している。



デジタル化で働きやすい環境も実現したかった

【平成25年度補正】 濃度計の自動制御による カラーマネジメントの確立

➡ 会社の強みは何ですか？



会社が小さいからこそ、痒いところに手が届くような仕事ができなければいけません。ほかの会社が無理だと言った仕事をスピードを持って取り組み、お客様の信頼を得て行くことが突破口になると思います。

➡ 昨年、仙台商工会議所青年部の 会長だったそうですね



その時も「ステップアップ」をキャッチフレーズに掲げました。マグロが泳ぎ続けていないと死んでしまうのと同じで、人も会社も常に上を見て、次のステージを目指すべきだと思っています。



株式会社セイトウ社 代表取締役 西牧 潤 氏

信条 人も会社も常に「ステップアップ」